

平成 28 年度八王子市青少年問題協議会

第 2 回検討会 会議録

名称： 平成 28 年度八王子市青少年問題協議会第 2 回検討会

日時： 平成 28 年 11 月 30 日（金）午前 10 時～12 時

場所： 八王子市役所本庁舎 7 階 702 会議室

次第

- 1 挨拶
- 2 委員紹介
- 3 第 1 回検討会会議録について（確認）
- 4 八王子市青少年健全育成基本方針 平成 29 年度 重点目標について
- 5 情報提供
 - (1) 最近の青少年の非行情勢について
 - (2) 学校教育部から
 - ① 「第 1 回中学生サミットの実施結果について」 および「第 2 回八王子市いじめ防止対策推進会議について」
 - ② 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
 - ③ ポスター「いじめ防止」に向けた行動指針
 - (3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の取組結果について
 - (4) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について
 - (5) 市制 100 周年記念事業 ぼく・わたしたちの八王子 子ども絵画コンテスト開催結果等について
 - (6) その他

【出席】

八王子市青少年対策地区委員会連絡会代表	中原 教智	委員
八王子地区保護司会	内田 實	委員
都立高等学校校長会代表	高野 宏	委員
八王子市内私立中学高等学校校長代表	島田 浩行	委員
八王子市立中学校長会代表	清水 和彦	委員
八王子市公立小学校長会代表	春田 道宏	委員
八王子市立中学校PTA連合会代表	加地 弘子	委員
八王子市立小学校PTA連合会代表	川島 弘嗣	委員
八王子警察署生活安全課少年第一係	篠原 健志	委員
八王子市教育委員会事務局学校教育部 統括指導主事	佐藤 晴美	委員
八王子市子ども家庭部子どものしあわせ課長	平塚 裕之	委員
八王子市生活安全部防犯課長	福島 義文	委員
八王子市健康部生活衛生課長	遠藤 譲一	委員
八王子市子ども家庭部児童青少年課長	渡邊 聡	委員 座長

出席 14 名

(事務局) 子ども家庭部児童青少年課

中山、若林、黒多

【配布資料】

- (1) 資料 1 第 1 回検討会会議録
- (2) 資料 2 「八王子市青少年健全育成基本方針 平成 29 年度重点目標リーフレット文
案作成にあたって」
- (3) 資料 3 「八王子市青少年健全育成基本方針 平成 29 年度 重点目標リーフレット
(A3 版)」
- (4) 資料 4 「第 1 回中学生サミットの実施結果について」および「第 2 回八王子市
いじめ防止対策推進会議について」、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題
に関する調査」について
- (5) 資料 5 「子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の取組結果について
- (6) 資料 6 市制 100 周年記念事業 ぼく・わたしたちの八王子 子ども絵画コンテス
ト開催結果等について

【参考資料】

- (1) 「いじめ防止」に向けた行動指針 (ポスター)
- (2) 青少年健全育成キャンペーン啓発物資 (絆創膏)
- (3) 第 2 回 中学生ミーティング～スマホのある生活を考えよう～ (チラシ)

【議事要点】

1. 挨拶

児童青少年課長から挨拶

2. 委員紹介

事務局から、新委員の名前・所属団体を紹介

3. 第1回検討会会議録について（確認）

資料1に基づき事務局から説明

【事務局】

こちらは委員の皆様からいただいた修正箇所を基に事務局で訂正した会議録である。14頁について、防犯課より訂正のご連絡をいただいた。今一度内容をご確認いただき、差支えなければ、この場で第1回検討会会議録を確定するがいかかがか。

→委員からの意見等なし

第1回検討会 会議録を確定

4. 八王子市青少年健全育成基本方針 平成29年度 重点目標について

資料2・3に基づき事務局から説明

【座長】

皆様から頂いた意見を事務局で取りまとめ、A3版のリーフレットを作成した。内容の確認と方向性についてもご意見をいただきたい。

○総論について

【春田委員】

重点目標と3つの行動指針の文言を並べた時に、標語としての役割があると考えたら、「みんなでつないでいこう」よりも「みんなでつなごう」のほうが語呂がよい。また、指針3の「未来へつなげていこう！」よりも「未来へつなげよう」のほうが語呂がよい。指針2も「みんなで話そう」になっているので、変更したほうが耳触りも良いのではないかと。

【事務局】

平成26年度から継続して用いている重点目標であるため、変更するのであればどのような理由で変更したほうがよいのかを皆様から伺いたい。

【座長】

言葉のニュアンスとしては、みんなに投げかける「みんなでつなごう」、継続を表す「みんなでつないでいこう」で確かに異なっていると感じる。

【遠藤委員】

私も春田委員の意見に賛成だ。「つなごう！」には他人任せでなく、自分たちで行う意味合いが含まれると感じる。「つなごう！」にはみんなでやろう！というニュアンスがあるので、その方が良いと考える。

【清水委員】

長い期間継続して行う目標でもあり、「つないでいこう」の表現によって、重点目標の立ち位置が変わるといえることはあるだろう。重点目標は継続して取り組んできてもいるため「つないでいこう」が良いのではないか。

【春田委員】

重点目標の変更は難しいと思われるが、発言させていただいた。

【座長】

確かに、重点目標はすでに決定している事項なので変更は難しい。

【春田委員】

「まち」・「切りひらく」についてはひらがな表記を使っているのか。

【事務局】

まちについては、八王子 2022（基本構想・基本計画）でも「まち」を使用しているため、合わせた表記としている。また「拓く」については、青少年健全育成基本方針では「拓く」を使用しているが、漢字では難しいと考え、総論では「ひらく」にした。表記統一のため、ルビを振り「拓く」にしてもよいかと考える。

【平塚委員】

八王子の歴史を紹介する箇所「祭りばやし」が使われているが、八王子市では「まつり囃子」の表記が多い。「八王子まつり」では「まつり」がひらがなであり、八王子祭囃子連合会などの大きな団体でも「囃子」は漢字で使用していることもあるので検討していただきたい。

【座長】

事務局で、八王子市として使っている表記を調べてはどうか。

【遠藤委員】

総論 5 段落目 1 行に、『現代社会では失われつつある「思いやり」』とある。思いやりは失われてはいないと思う。「思いやりや優しさをどう表現していいかわからない」というのが相応しい状況。たとえば「忘れられている」「重要とされていない」という言葉のほうがふさわしいと考える。

【清水委員】

たしかに、「思いやる心」は、自分の心の内にあり、失われるものではないのだろう。ただし、「思いやる」という行為は失われつつある。そう考えると、私は修正する必要がないと考える。

【佐藤委員】

確認だが、思いやりは本当に失われつつあるのか。段落が空き、この一文から文章が始まるので、かなり目立つ。一部の見解ではないのか。

【春田委員】

「今の時代になっても失われてほしくない」はどうか。

【佐藤委員】

「大切にしたい」などの肯定的なニュアンスの方がよいのではないか。見えにくくなっているだけで、思いやりは色々な所にはあるものだと思いたい。

【座長】

『現代社会で失われてはならない「思いやり」』など、一つの見解にしない表現をするのはどうかという話をしてきたが、いかがか。

【事務局】

新たな時代の幕明けとなる 100 周年に向けたニュアンスにすることも大切だと考える。ただし、スマホの使い方などに見られる自分本位な部分などに、思いやる心は実際に失われつつあるという実感が一般的にあり記載した。今年のリフレットまでは総論に「子どもたちを取り巻く問題」を載せたうえで、思いやりの心の育みの大切さを改めて見直す構成となっていた。来年度は市制 100 周年であるため、古き良きことにしっかり目を向けて、それを発展させていこうというニュアンスにしようと考えている。

この部分については肯定的な表現も考え、再提案させていただきたい。

【春田委員】

総論 3 段落目 3 行の『熱く率直な願い』は、『熱く素直な願い』にしてみてもどうか。それだと意味合いが弱すぎるか。

【事務局】

60 文字という限られた文字数に未来の八王子に残していきたい風景や願いなど熱く、率直なメッセージを書いた子どもも多かった。それを伝えたく、この表現を用いた。

○行動指針1「大丈夫！親が後押し、子どものチャレンジ」について

【清水委員】

指針1について、**can** や **will** などの英語表記をするなら、4段落目2行のチャレンジについても **do** を表記してみてはどうか。また、4段落目2行「できた！」にも **can** を当てはめてみてはどうか。

【佐藤委員】

英語を入れた意図を聞きたい。

【清水委員】

英語表記を取って、誤解のないようにしてもよいのではないか。

【福島委員】

人によっては、「こうしよう、こうしたい！」がなぜ **will** なのか考えてしまう。

【事務局】

読み手として中学生も見る大人を対象としたリーフレットではあるが、そのため馴染みある英語が入っていると頭にも入りやすいと考え、記載した。**can**（できること）が増えれば **will**（意思未来を表す）につながるが、チャレンジを **do** とすると、変換が難しくなると思う。それを踏まえると、**can** や **will** の英語表記は無くてもよいと考える。

【清水委員】

4段落目2行「できた！」は太字にしてはどうか。

【春田委員】

文章で **can** を削除するのなら、イラストの **can** も外してみてはどうか。

【高野委員】

「挑戦心」と「チャレンジ」、「意欲」と「こうしたい」、「できる」と「できた」等、似ている言葉の意味合いをなるべく統一した方が良い。また、統一表記として最後のできるに「」をつけてはどうか。

【事務局】

2段落目2行「挑戦心」は文脈を考慮して、「チャレンジ」より漢字の「挑戦心」のほうが適していると考えた。

また、4段落目2行「できた！」は子どもの「できる」との自覚を増やしていくために、保護者には小さなことでも子どもの「できた」その瞬間を目に留め、喜んでもらいたいことを書いている。そのため、「できる」でなく「できた！」とした。

【高野委員】

「できた！」は達成感となるのか。「意欲」と「こうしたい」は具体的な言葉に変えては

どうか。

【座長】

最後の「できた！」もできるに変更した方がよいとの考えか。確かに、子どもが母親に「できるよ！」と伝えることもあるだろうが、「できた！」のほうがその瞬間の喜びの印象が強く感じられる。皆様はいかがか。

【春田委員】

口語表現の箇所だが、会話表現であるので「頑張っているね」は「頑張ってるね」、「聞いているの！」は「聞いているの！」、「しっかりしているね」は「しっかりしてるね」にした方がよいのではないか。

【事務局】

先生方のほうがこういった表現は詳しいと思う。ご意見を踏まえ修正させていただく。また、「うちの子も脱いだら脱ぎっぱなしで」という会話が例として適しているかご意見いただきたい。親同士の会話の事例として、良いフレーズはないか。

【春田委員】

私はこのままでよいと思う。ただし「うちの子も脱いだら脱ぎっぱなしで」は「もう、うちの子も脱いだら脱ぎっぱなしで…」の方がよいのではないか。

【清水委員】

「ちゃんと」は「しっかり」として使うものだと思うが、口語表現として「ちゃんと」を使う場合はあると思うがいかがか。

【春田委員】

「聞いているの！」は良く耳にする。言いやすいし、易しい言葉に感じられる。

○行動指針2 「みんなで話そう！本当に必要？スマホに向かうその時間」について

【春田委員】

指針2について、「子どもが話したそうにしている横で」は「子どもの横で」としてはどうか。子どもが話したそうにしていなくても「子どもが横にいるのに」スマホばかりに目を向けている大人が増えつつある印象がある。

【清水委員】

タイトルの「みんなで話そう！」にもつながっているのではないか。

【春田委員】

また、子どもと親との関わりを考える上で、タイトルの「みんなで話そう」は、親同士を指すのか、子ども同士を指すのか。親子でも話し合うとは思いますが、話しあってほしい対象は誰か。私は小さな子をイメージしていた。その場合、タイトルの「みんなで話そう」

とは少し異なるニュアンスになるだろう。

【座長】

「スマホに向かうその時間は本当に必要なのか」を話し合うという意味合いなのか。また、子どもが「話したそう」はタイトルの「話そう！」とはニュアンスが異なっているという認識でよろしいか。

【春田委員】

「みんな」というのは親子も含めているのか。

【事務局】

子どもの傍らでスマホばかりに目を向けている大人の様子は春田委員と同じであると考えられる。少し和らげた表現にするため、「子どもが話したそうにしている横で」とした。ここでは、あまり強い表現とせず広く多くの方が受け止めやすいニュアンスとした。

【内田委員】

この文章は分かりやすくよいと思う。表現されているように目を見上げて話したそうにしている子どもは確かにいる。

【遠藤委員】

「相手の気持ちを**思いやり**発言に耳を傾け」は「相手の気持ちを**思いやり**、発言に耳を傾け」にしてはどうか。

【春田委員】

読点の位置を変えて、「会話をしていたら多くの人は、」は「会話をしていたら、多くの人は」としてはどうか。

【事務局】

ご提案の通り変更する。

【佐藤委員】

チェックリスト項目2「子ども」は「我が子」にしてはどうか。指針1のコラムでも、我が子との表記がある。文脈も良いと考えるがいかがか。

【事務局】

ご提案の通り変更する。

【清水委員】

チェックリスト項目3「それは何ですか」は取った方がよいのではないか。記載するならば「活用していますか」や「実践していますか」の方がよいのではないか。

【事務局】

答えをイエス・ノーで終わらせず、どういったルールなのかと聞くことにより話を広げるきっかけにしたいと考え、このような質問とした。事務局で再度検討させていただきたい。

【佐藤委員】

また、「スマホの良いところ・悪いところ」というタイトルでよいのか。

【事務局】

言われるとおり、スマホを使う時間の必要性をテーマとしているので、スマホとどう付き合うか、「使い方」の方が適切かもしれない。

【福島委員】

2段落目4行「思いやりを失わせていきます」はスマホが思いやりを失わせてしまうという理解でよろしいか。失わせる場合もあるという意味で「しまうことがあります」という表現の方が良いのではないか。

【事務局】

直接顔を見ながらの対話であれば起こらないようなこと、たとえばスマホの世界では、誹謗中傷などエスカレートしてしまうことがある。そこには知らず知らずに思いやりの心が失われつつある面があると考え。もし断定する表現に問題があるならば、語尾の工夫を再考したいと考える。

【春田委員】

「ときに」という表現が入っているので、和らげた表現となっているのではないか。「ときに～失わせていきます」が適切ではないか。

【佐藤委員】

思いやりをこの文章に入れなければならないのか。思いやりには配慮や気遣いなど含めた色々な形がある。「思いやりを失わせていく」という表現が適しているのか気になる。

【清水委員】

配慮や気遣いといった表現とすると、文章全体の一貫性がなくなるのではないか。

【平塚委員】

自分本位になりがちということが本質的な課題なのではないか。

【遠藤委員】

ここでは、「思いやり」がテーマとなっているんですね。

【福島委員】

思いやりを失うのではなく、忘れさせていくが相応しいのかもしれない。

【高野委員】

2段落目3行「相手の気持ちを**思いやり**発言に耳を傾け」の「**思いやり**」は動詞である。そのため太字になっているが、太字にはしないほうが良いのではないか。4行「やり取りの相手への思いやり」で混乱してしまうのではないか。

スマホは直接相手の顔が見えない中で、やり取りするので、相手を思いやるのが難しい。

【座長】

「**思いやり**、」の言葉についてどこを太字にするかは、委員の指摘を踏まえて事務局で検討してほしい。

【事務局】

次回、再提案することとする。

○行動指針3『未来につなげていこう！「子どもを見守り・育てる」地域づくり』について

【春田委員】

「また、大人が冗談を交わしながらも助け合う様子」は「も」をはずし、「また、大人が冗談を交わしながら助け合う様子」にしてはどうか。逆説的な意味合いの「も」に捉えてしまう。また、「声をかける思いやりある姿は子どもにとって」は「声をかける思いやる姿は、子どもたちの」にしてはどうか。一文が長いので、**読点**を付けるべきだと考える。

【清水委員】

20字を超えない程度に簡潔に区切るべきだ。

【事務局】

1文目を「姿」で区切り、修飾語が多く長い主語は短くするよう修正する。

【高野委員】

また、学校の取組紹介の欄だが、他のタイトルとフォントや文字ptが同じだ。囲み飾りにしたり、桜のイラストを変えることで区切りをわかりやすくした方が良い。

【佐藤委員】

「恰好いいな」は「格好いいな」にしてはどうか。恰好はあまり使う漢字の表記でない。また、達成感は教えるものではなく、味わわせるものだと思う。

- ・「会話をしていたら多くの人は、」は「会話をしていたら、多くの人は」に**指摘の通り変更**とする。
- ・「スマホの良いところ・悪いところ」は「スマホの使い方」に**指摘の通り変更**とする。
- ・チェックリスト項目②「子ども」は「我が子」に**指摘の通り変更**とする。

- ・その他委員からの意見を踏まえた検討事項については、事務局で検討し、次回提案する。

6. 情報提供

(1) 最近の青少年の非行情勢について

八王子警察署生活安全課第一係長 篠原委員から口頭説明

【篠原委員】

八王子市内三署の本年1月～10月の少年非行の現状について報告する。10月末までの非行少年の検挙件数は263件、平成27年の検挙件数211件と比較すると、若干増加の傾向がみられる。犯罪の種別としては、全体の半数以上が窃盗である。窃盗146件の内訳としては、7割が万引きだ。万引きも多種多様な手口で行われている。その手口としては、一人、またグループでの万引き、そして衝動的に行う場合、また計画的に行う場合などがあり、実に多様である。また、小学生による万引きも増えている。しかも高学年の児童ではなく、低学年の小学校1・2年生がコンビニエンスストア等でお菓子・ゲームカードを万引きする事案が発生しているのが現状だ。

そして、出会い系サイト規正法違反により少年が検挙される事案も発生している。出会い系サイト規正法違反とは、インターネット上の掲示板に援助交際を募る書き込みをする「誘引」、つまり児童を性的対象として誘導するような行為のことだが、そういった書き込みをしているのが女子高校生というケースが何件かあった。書き込んだ理由としては「遊ぶ金欲しさ」、また「携帯電話の料金支払いのため」を挙げており、そのために援助交際を募るような書き込みをSNSなどの掲示板にしていたということだ。

非行少年の補導状況については、検挙件数と同じく増加の傾向がみられる。10月末までの補導件数は1037件、平成27年の補導件数756件と比較すると、その傾向は顕著である。補導の内訳としては、約800件が深夜徘徊だ。他には、喫煙・飲酒等が挙げられる。たばこの購入先は、おおよそがコンビニエンスストアだが、親のタスポを勝手に持ち出して自動販売機で購入するケースも見受けられた。

また、サイバー補導についても報告する。掲示板に「下着を売ります」等の書き込みをし、サイバーパトロールという形で接触し、その場で注意・指導を行う捜査手法を取っている。少年たちが性的被害に遭わないことを目的としたものだが、実際に補導した女の子に、「もし警察官でなく暴力団等にホテルに連れ込まれて、注射でも打たれてたらどうしていたか」と聞くと、「そんなこと考えてなかった」と返ってきた。こうしたら、こういった危険性があるという想像力の欠如、またその危険性を真剣に捉えていない面があることを実感した。このような状況の中で、警察ではセーフティ教室を活用して、スマートフォンの使い方や犯罪被害の問題について注意喚起を行っている。保護者にはスマホの使い方、またタスポ管理についても指導をしているところだ。

そして、最近では自撮り被害という事案が増えている。「裸の写真を送ってよ」との言葉から安易に送った画像も、インターネット上に拡散すれば、送信した画像は警察でも削除しきれない。そういったことが起こらないように、学校に「裸の写真を送らない」等の指導を依頼している状況だ。今後とも皆様のご協力をお願いする。

【清水委員】

保護者と話をしてみると、そこから問題点が見えてくることがある。なかなか保護者と感覚がかみ合わないケースだ。「あなたのお子さんの話をしているのだ」と伝えても「私も忙しくて…」と返されることが実際にある。

【篠原委員】

先ほどお話したセーフティ教室の第 2 部では、保護者に参加してもらう形式を取っている。まずそこに保護者がほとんど来ない。来ても、数名だった時もある。警察でも保護者に伝えるような機会が少ないという現状がある。

【清水委員】

PTA の役員決めの際にも、保護者に感じるのだが、どこか他人事のようなところがある。昔と時代が異なるというのもあるが、どうしてこうなってしまったんだろうという感じは否めない。親はいるが、保護者はいないという状況だ。そういったところには、私たちも危機意識を持たなくてはならない。

前回お話したポケモン GO の流行も終息に向かった。子どもたちも外に出るのが面倒なのかもしれない。LINE 等のゲームの換金によって 10 万円以上儲けた子どもがいる。そういった中学生、下手をすれば小学生が現れる時代だ。また、中学生が自分で稼げるようなアプリも出回っている。稼いだお金は通帳に振り込まれるので、止めるとしたらそこが最後の砦となっている。こういったことを保護者の方に理解してもらうのも大変で、実際にこのようなケースに遭遇したこともある。

【中原委員】

清水校長がおっしゃっていることが身に染みる。私たちが夜間パトロールをする際に、コンビニエンスストアの店主に万引きについて話を聞くと、最近は大半が小学生だ。夕方や夜に小学生が複数名で来た場合は警戒する。捕まえて親を呼び出しても、親があまりにも無関心で子どもの危機管理ができていない。この子は将来どうするんだろうと店主は気にかけて、心配している。また、そういったケースは減少傾向になく、むしろ増えていると聞く。

スマホの問題が出ていたが、2 歳児がゲームをしている。「大人しくなっているからいいのよ」と親は言うが、本当にそれでよいのか。そう言われるとなかなか注意できない。いまは園児のころからゲームをしている子どもがいる状況もある。

また、タトゥーの塗り物をしてくる子どもが多いことも気になる。1 週間くらいタトゥーを取らない子もおり、2～3 歳からそういったことをしていると将来どうなるのかと思う。また、学校のクレームの対応もあり、先生方は本当に大変だと思う。

（２）学校教育部から

八王子市教育委員会事務局学校教育部統括指導主事 佐藤委員から資料 4 に基づき説明

【佐藤委員】

第 1 回青少年問題協議会から第 2 回までの子どもたちに係る報告事項をお話しさせてい

ただく。

第1回中学生サミットを夏休みに開催した。第1回の議題は「『いじめ防止』に向けた行動指針を検討する」であり、各中学校から2名を代表とし、教育センターにて各ブロックごとの意見を発表した。決してきれいごとだけを発表したものではないということをご理解いただきたい。全体会で出た意見には、「いじめられた人が相談する目安箱の設置」や、「伝えたいことを文章にできない子もいるのではないか」という意見、また「自分たちでいじめをなくすために行動するべきだ」、「いや大人に助けを求めればいいのか」、「でも大人に相談して問題が解決するのか」、などとの意見が出た。こうやって本音で話し合うことは大事ではないかと考える。今後中学生サミットは継続して行い、テーマは毎年少しずつ変えていくが、次年度もいじめについて話し合おうと考えている。

今年度はサミットの検討を基に、いじめから目を背けないという行動指針を決定した。ポスターにして皆さんにもお配りしている。皆様にも、是非、掲示及び発信をお願いしたい。この指針は八王子市の中学生が考えたもの。まだ至らぬ点もあるが、子どもたちが色々な側面から考えたものである。中学生だけでなく、小学生も全校で行動指針について話し合い、これを基に自分たちでいじめをなくすために何ができるかを考え具体化し、実現するようにしている。ぜひ皆様方にも、八王子市の小中学生への働きかけについて、ご協力とご支援をお願いします。

中学生サミットを行う前に、「いじめに関わる意識調査」というアンケートを取った。「あなたはいじめについてどう思いますか」という設問に対して、大半の子どもたちはいじめは良くないことだと分かっていることが判明した。書かれた意見の中には「相手が悪いことをしており、それを注意をしたのに、逆切れされて言い返された。それを逆手にとっていじめられたと言われる」、「大人はいじめをいけないというが、言うだけで終わり。それに子どもより大人のいじめの方がひどいんじゃないか」とあった。いじめを公にできるかどうか分からないので子どもたちの意見については配布していないが、まずいじめはなくすものであり、いけないことである。どんなことであっても、本人がいじめと言えはいじめになるというのが今の考え方だ。そう考えると、今回の子どもたちの言葉は届かなくなってしまう。色々な背景があることを子どもにも理解してもらわねばならないが、大人も含めて、社会全体でいじめについて考えていかなければならないと考えており、この場で紹介させていただいた。

続いて、「第2回八王子市いじめ防止対策推進会議」について報告させていただく。関係機関がいじめ防止に向けた取組を発表し、意見交換をしている。最終的には、こころの教育・規範意識を育まなければならないが、生徒たちにどうしてそう考えるかを踏まえて、大人も関わる必要があるのではないかと。この会議を行う前は、機関ごとに取組が分離していた。良い取組をしている青少対と学校の取組がつながるなど、各機関の取組がつながることで、効果が生まれると考える。

また、教育委員会定例会で発表した、平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」だが、資料を使いたい場合はご連絡ください。資料のうち、暴力件数・不登校については低年齢化している。ここ何年かで件数が増えているわけではないが、学年はどんどんと下がってきているということをご理解いただきたい。

→委員から特に意見等なし

(3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の実施について

生活安全部防犯課長 福島委員から資料5に基づき説明

【福島委員】

休み期間中に取組を行い、全所管全職員が「オール八王子」で子どもを見守った。今年度、子ども家庭部の事故報告件数は50件。ほぼ軽微な事故だった。重大事故・犯罪被害の報告はなく、これも職員個人レベルからの情報提供によるご協力の成果であると考え。また、ポケモンGOの流行は現在終息に向かっているが、その対策を行った施設が多く見受けられた。

→委員から特に意見等なし。

(4) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について

健康部生活衛生課長 遠藤委員から口頭説明

【遠藤委員】

11月20日(日)、中央図書館前にていちよう祭りが開催されたが、そこで薬物乱用防止普及啓発活動を行った。薬物乱用防止推進委員・保護司を含め、33名で普及啓発活動を行った。市独自の啓発パンフレット・ティッシュなどを3点セットで配布をした。

また、ダメゼッタイ君などのキャラクターには子どもの関心が高かった。子どもとともに、若いお父さん・お母さんも一緒に見に来てくれた。

覚醒剤事犯で多く検挙されているのが20～30代ということを考えると、対象者への普及啓発ができたと考えられる。今後も継続して行っていきたい取組なので、宜しく願いいたします。

【事務局】

関連事項として、青少年健全育成キャンペーンの件で報告をさせていただく。本日欠席されている立川委員より、いちよう祭りでの青少年健全育成キャンペーン啓発活動について報告をいただいている。

いちよう祭りにおいては、育成指導員を中心に青少年健全育成キャンペーンを実施した。立川委員が代表である八王子市青少年育成団体連絡協議会、保護司会の皆様の協力をいただき、お手元にある絆創膏セットや各団体のパンフレットを配布した。11月13日には八王子駅北口にてメインキャンペーンを行い、警察やPTAなど多くの団体の皆様からもご協力をいただいた。本当にありがとうございました。

→委員から特に意見等なし

(5) 市制100周年記念事業 ぼく・わたしたちの八王子 子ども絵画コンテスト開催結果等について

事務局から資料6に基づき説明

【事務局】

子ども絵画コンテストでは、今年4月から8月にかけて作品を募集し、約5,000作品もの応募をいただいた。佐藤統括指導主事、また学校校長会のご協力を賜り、コンテストの

盛会につながったと考える。改めてお礼申し上げます。

10月10日の優秀賞以上の表彰式も運動会で欠席した1名を除き、受賞者の児童・生徒は全員出席となり、表彰式が執り行われた。努力賞以上の約400作品を展示した展覧会も大変好評をいただいたこともあり、1月16日～1月22日には八王子南口総合事務所で再度展覧会を開催する予定。1月1日号の広報はちおうじにも掲載する。

また、来年度にはオリンパスホールにて、青少年対策地区委員会と共催の市制100周年記念事業を控えている。子どもたちの未来の八王子へのまちづくりに対する考えを募る作文を募集するので、今後学校にも協力をお願いする。よろしくお願いいたします。

→委員から特に意見等なし

(6) その他

【加地委員】

第1回中学生サミットに参加いただいた皆様に感謝を申し上げたい。また、1月21日(土)午後2時から、教育センターにおいて第2回中学生ミーティングの開催を予定している。小学校の児童と一緒に行う会議であり、どのような形にするかは検討中だが、ぜひ皆様のご出席をお願いしたい。

→委員から特に意見等なし

第3回検討会の開催について

事務局より説明

日時 平成29年1月27日(金) 午前10時～12時 市役所7階701会議室